

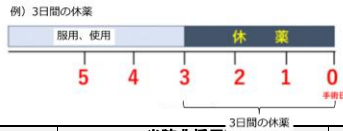
鳥取大学医学部附属病院 術前中止薬一覧

こちらに記載されているものは、手術や侵襲的処置を必要とする場合の基本的な術前中止期間を記載しています。内視鏡検査前の術前中止は、別途「抗血栓薬服用患者における消化器内視鏡診療ガイドライン」に基づき行われています。**術前中止およびその再開については術式、侵襲度、また患者の状態に応じて主治医が判断します。**

2026年6月現在

■基本的な休薬期間の考え方

・手術日を基準(0日)とする



採用薬(商品名)	当院非採用薬	休薬期間	再開時期
血液凝固防止薬			
エリキュース錠		通常手術前24時間以上 ただし、腎機能【15≦Cr≦30】かつ出血低リスク手術・手技時 手術前36時間以上 出血高リスクの手術や侵襲的手技時 手術前48時間以上	原則として、術後6～24時間以内に再開する
イグザレルトOD錠	リバーロキサパン	手術前24時間以上	・出血リスク中等度から高度の手術の場合、出血による気道トラブルのリスクの高い手術の場合は、24時間以内に再開できないことはやむを得ないが、可能な限り早期に再開する
ブラザキサカプセル		通常手術前24時間 完全な止血機能を要する大手術・出血の危険性が高い患者の手術では手術前2日以上(48時間以上)	・持続硬膜外ブロック実施中の場合には再開しない。硬膜外麻酔中等、術後早期に血液凝固防止薬や抗血小板薬を再開する必要がある場合は麻酔計画に影響するため、麻酔担当医に伝える
リクシアナOD錠		手術前24時間以上	・判断に困るケースは脳卒中対応チーム、脳神経外科、循環器内科に相談する
ワーファリン錠		4～7日間	
ヘパリンカルシウム皮下注		手術前12時間以上	
抗血小板薬			
アンブラーグ錠、サルボグレート塩酸塩錠		1日間	原則として、術後24～72時間以内に再開する
ジビダモール散、ベルサンチン錠		2～3日間	
イコサペント酸エチル、エパデール		7日間	
エフィエントOD錠	プラスグレルOD錠	14日間	・出血リスク中等度から高度の手術の場合、出血による気道トラブルのリスクの高い手術の場合は、72時間以内に再開できないことはやむを得ないが、可能な限り早期に再開する
オバルモン錠		1日間	・持続硬膜外ブロック実施中の場合には再開しない。硬膜外麻酔中等、術後早期に血液凝固防止薬や抗血小板薬を再開する必要がある場合は麻酔計画に影響するため、麻酔担当医に伝える
リマプロストアルファデクス錠		1日間	
コメリアニュー錠	ジラゼブ	1日間	
シロスタゾールOD錠、プレタールOD錠		3日間 ※脳血管内手術では継続	
バイアスピリン錠	アスピリン、アスファネート、	4～7日間	
タケルダ配合錠	バファリン、ニトギス、	※脳血管内手術では継続	
キャベピリン配合錠	パッサミン、ファモター ★解熱鎮痛目的アスピリン製剤は除く。	※小手術の場合には継続する場合あり。呼吸器内視鏡検査では7～10日の休薬(ガイドラインより)。	
セロク랄錠	イフェンプロゾル	1日間	・判断に困るケースは脳卒中対応チーム、脳神経外科、循環器内科に相談する
パナルジン錠、チクロピジン		10～14日間 ※脳血管内手術では継続	
プロサイリン錠	ペラソラLA、ドルナー		
ペラプロストNa錠		1日間	
ケアロードLA			
ブラビックス錠、クロピドグレル錠	コンブラピン、ロレアス	10～14日間 ※脳血管内手術では継続	
ロトリガ粒状カプセル			
オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル		7日間 ※エパデールに準じる	
	トラビジル、ロコルナール	1日間	
	プリリタ錠	5日間	
微小血栓形成阻害剤			
	カプリビ注射用	7日間	
レニンアンギオテンシン系薬剤			
〔周術期の降圧薬の使用(高血圧治療ガイドライン2019 p176 外科手術後の血圧管理)〕 降圧薬は手術当日まで服用させるのが原則で、術後できるだけ早く再開する。特にβ遮断薬を使用している場合は、投与によりβ受容体の数が増えて いるため、急に中止するとリバウンドの反跳性高血圧や心拍数増加のリスクがあるので、投与を中断しないよう注意が必要。 注意：レニンアンギオテンシン系薬剤と他の成分を含む降圧薬配合剤については、医師に他の降圧薬単剤での内服継続の必要性を確認する。例)カルシウム拮抗薬とARBの配合剤			
アジルバ錠、顆粒、アジルサルタン錠	アデカット	手術当日	
ザクルス配合錠LD、HD	ジルムロ		
イルベタン錠、イルベサルタン錠	アパフロ		
イルトラ配合錠LD、HD			
アイミクス配合錠LD、HD	イルアミクス		
エースコール錠	デモカプリル		
オルメテックOD錠			
オルメサルタンOD錠			
レザルナス配合錠LD、HD			
カプトリル錠	カプトプリル		
コバシル錠	ペリンドプリルエルブミン、ペリンドプリル アラセプリル、セタプリル		
タナトリル錠			
イミダプリル塩酸塩錠			
	チバセン、ベナゼプリル		
	オドロック、トランドラプリル		
ディオバン錠	アムバロ、コディオ、バルヒディオ		
バルサルタン錠			
エックスフォージ配合OD錠			
アテディオ配合錠			
ニューロタン錠	ロサルヒド		
ロサルタンカリウム錠			
プレミネント配合錠LD			
プロプレス錠	カデチア、カムシア、ユニシア		
カンデサルタン錠			
エカード配合錠HD			
ミカルデリス錠	ミコンビAP		
テルミサルタン錠			
ミカドリオ配合錠			
ミカムロ配合錠AP、BP	テラムロ		
ミコンビ配合錠BP	テルチア		
ラジレス錠150mg			
レニベース錠			
エナラプリルマレイン酸塩錠			
ロンゲス錠	ゼストリル、リシノプリル		
エンレスト錠			

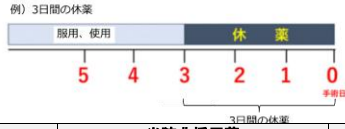
鳥取大学医学部附属病院 術前中止薬一覧

こちらに記載されているものは、手術や侵襲的処置を必要とする場合の基本的な術前中止期間を記載しています。内視鏡検査前の術前中止は、別途「抗血栓薬服用患者における消化器内視鏡診療ガイドライン」に基づき行われています。**術前中止およびその再開については術式、侵襲度、また患者の状態に応じて主治医が判断します。**

2026年6月現在

■基本的な休薬期間の考え方

・手術日を基準(0日)とする



採用薬(商品名)	当院非採用薬	休薬期間
抗がん剤、他類似薬		
アバチン点滴静注用 ペバシズマブBS点滴静注 インライタ錠 ヴォトリント錠 オフェブカセル サイラムザ点滴静注 ザルトラップ点滴静注 スーテントカプセル スチパーガ錠 トーリセル点滴静注液 ネクスパール錠 レンビマカプセル	 カブレルサ、ラパリムス錠、カボメティクス、フリュザクラ	 医師の指示 添付文書参照(創傷治癒遅延)
	イムブルピカ、カルケンス、ベレキシブル ブルキンザ	医師の指示 添付文書参照(出血) 3〜7日間
PDE5阻害薬 他類似薬		
ザルティア錠、シアリス錠 アデムバス錠 レバチオ錠	アドシルカ錠、タダラフィル バイアグラ、シルデナフィル レビトラ錠、バルデナフィル	医師の指示 硝酸薬あるいは一酸化窒素(NO)供与薬(ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド等)と併用禁忌。本剤の血管拡張作用により、術中に上記薬剤を併用した際、血圧が過度に下降するおそれあり。併用する際は手術前中止が推奨される
肺高血圧治療剤		
	ウブトラビ	医師の指示 (抗血小板作用あり)
糖尿病薬・肥満症治療剤		
下表の医薬品について添付文書ですべて禁忌(重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者)に設定されている。インスリンによる血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。 周術期には絶食、ストレスなどにより血糖値が乱れやすく、術前に血糖を速やかにコントロールするため、内服薬を避けて調整が容易なインスリンの頻回注射が主体となる。 ピグアナイド系薬剤(BG)は乳酸アシドーシスのリスクがあるため、休薬期間2日間(48時間以上)を必要とする。糖尿病治療中のSGLT2阻害薬は正常血糖ケトアシドーシスのリスクがあるため、休薬期間3日間(72時間以上)を必要とする。 インスリンへの切替が必要か判断が難しい場合、内分泌代謝内科に相談する		
インスリン分泌促進薬		
グルファストOD錠 ミチグリニドOD錠 グルベス配合錠 レバグリニド シュアポスト錠 スターシス錠、ナテグリニド	 ファスティック	手術当日
SU剤		
アマリール錠、グリメピリド錠 オイグルコン錠 グリミクロン錠	 グリベンクラミド グリクラジド	手術当日。但し、インスリンへの切替が必要な事があるため、手術1ヵ月前までに内分泌代謝内科へ相談する
αグルコシダーゼ阻害薬		
グルコバイ錠、アカルボース錠 セイブル錠、ミグリトールOD錠 ベイスン錠、ボグリボース錠 グルベス配合錠	 	手術当日
インスリン抵抗改善薬		
アクトス錠、ピオグリタゾン錠	ソニアス、リオベル	手術当日
ピクアナイド系薬剤		
メトグルコ錠、メトホルミン塩酸塩錠 エクメット配合錠HD、イニシク配合錠 ツイミグ錠	エクメットLD、グリコラン、メタクト、メトアナ メホビル配合錠	2日間以上
選択的DPP-4阻害薬		
ビルダグリプチン錠、エクア錠 ジャヌビア錠 テネリアOD錠 トラゼンタ錠 ネシーナ錠	 グラクティブ リオベル オングリザ、サキサグリプチン スイニー ザファテック錠 (週1回製剤)	手術当日 手術当日 ※但し、特機的手術時は1週間前から休薬。判断が難しい場合、内分泌代謝内科に相談する。
マリゼブ錠 (週1回製剤) GLP-1作動薬(内服) リベルサス錠	 	手術当日
GLP-1作動薬(注射薬)		
ビクトーザ皮下注	バイエッタ皮下注ベン ソルトファイ配合注 ※インスリンとの配合製剤 リクスマア皮下注 ソリクア配合注 ※インスリンとの配合製剤	手術当日
持続性GLP-1受容体作動薬(注射薬)		
トルリシティ皮下注 (週1回製剤) オゼンピック皮下注 (週1回製剤) ウゴービ皮下注 (週1回製剤)	 	1週間
持続性GIP/GLP-1受容体作動薬		
マンジャロ皮下注(週1回製剤)	ゼップバウンド皮下注(週1回製剤)	1週間
SGLT2阻害薬		
カナグル錠 カナリア配合錠 ジャディアンス錠 トラディアンズ配合錠AP スーグラ錠 スージャヌ配合錠 フォシーガ錠 ルヤフィ錠	 トラディアンズ配合錠BP ダバグリフロジン錠 デベルザ	★注意★ ・本薬効群が「糖尿病」に対して処方されているかどうかを確認すること (「慢性心不全」もしくは「慢性腎臓病」に対して投与されている場合、「心不全治療薬、慢性腎臓病治療薬」のカテゴリを参照すること) 3日間(食事制限を伴う手術時のみ)

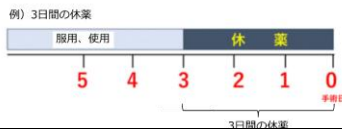
鳥取大学医学部附属病院 術前中止薬一覧

こちらに記載されているものは、手術や侵襲的処置を必要とする場合の基本的な術前中止期間を記載しています。内視鏡検査前の術前中止は、別途「抗血栓薬服用患者における消化器内視鏡診療ガイドライン」に基づき行われています。**術前中止およびその再開については術式、侵襲度、また患者の状態に応じて主治医が判断します。**

2026年6月現在

■基本的な休薬期間の考え方

・手術日を基準(0日)とする



採用薬(商品名)	当院非採用薬	休薬期間
週1回持続型溶解インスリンアナログ注射液		
アウィクリ注 フレックスタッチ		医師の指示 週1回製剤のため、手術1ヵ月前に内分泌代謝内科へ相談する。原則、連日投与のインスリンへ変更する必要がある。
採用薬(商品名)	当院非採用薬	休薬期間
心不全治療薬、慢性腎臓病治療薬		
SGLT2阻害薬		
カナグル錠		★注意★ ・本薬効群が「慢性心不全」もしくは「慢性腎臓病」に対して処方されているかどうかを確認すること （「糖尿病」に対して投与されている場合、「糖尿病薬」のカテゴリを参照すること） 手術当日（食事制限を伴う手術時にのみ）
ジャディアンス錠		
フォシーガ錠		
女性ホルモン関連薬		
4週間前から中止する薬剤あり		
女性ホルモン製剤は重大な副作用に血栓症があり、低用量ピル(終口避妊薬)は一律に添付文書で術前4週間休薬が義務付けられている(禁忌)。しかし、配合されているエストロゲン活性の強さやその薬剤の使用目的などで休薬の指針が異なる。患者ごとに血栓の妥当性のリスクを考慮してホルモン薬の中止の有無とその時期を決定する必要がある。		
アンジュ28錠	アンジュ21錠	4週間
トリキュラー錠21	シンフェーズT28,トリキュラー錠28	
ジェミーナ配合錠	マーベロン21,28、ファボワール21,28	
ヤーズ配合錠、ヤーズフレックス配合錠	フリウエル配合錠LD、ドロエチ配合錠	
ルナベル配合錠LD、ULD	ラベルフィーユ21,28	4週間
アリッサ配合錠		
プラノバル配合錠		
ウェルナラ配合錠		
ジュリナ錠 0.5mg	エストラジオール錠0.5mg	4週間 手術までに余裕があれば「中止が望ましい」。術前4週確保のために手術を延期する必要なし。
ブレマリン錠 0.625mg		
エストラナテブ		
エストロール錠	ホーリン錠、エストリオール錠	
ディビゲル1mg		※術前中止薬の対象としない薬剤 ・エストロール錠錠、ルティナス錠錠、ルテウム錠坐剤、ウトロゲスタン錠用カプセル、ノルパデックス(タモキシフェン)、フェアストン(トレミフェン)、アリミテックス(アナストロゾール)、フェマール(レトゾール)、エフメノカプセル
メノイドコンピパッチ		
ル・エストロジェル0.06%		
ヒスロンH錠200mg(癌)		
	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠200mg(癌)	医師の指示
骨粗しょう症治療薬		
エビスタ錠	ラロキシフェン	3日間 静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症、肺塞栓症、網膜静脈血栓症を含む)の リスク上昇。 半減期24.3時間
ビゼアント錠	バゼドキシフェン	3日間 休薬期間の規定はないが、半減期23±6時間とエビスタとほぼ同じであることから休薬期間もエビスタに準じた
飲酒量低減薬		
セリンクロ錠		1週間 ※オピオイドを使用する手術・処置の場合
乳児血管置換治療薬		
	ハマンジオルシロップ小児用0.375%	2日間
健康食品・サプリメント		
■ 手術前に服用中止が望ましい健康食品・サプリメントの成分(一部の例) イチョウ葉エキス、セントジョーンズワート(セイヨウオトギリソウ)、EPA/DHA(エイコサペンタエン酸/ドコサヘキサエン酸)、レスベラトロール、ガーリック(ニンニク)、朝鮮人参、ジンジャー(生姜)、カバ、エフェドラ、フィバーフュー、バレリアン、エキナケア、ノコギリヤシ、アロエ		
健康食品・サプリメントの中には、抗血栓作用や、薬剤の効果を増強又は減弱させる作用などを持ち、手術に影響するものが存在する。米国麻酔科学会(ASA)では、術前中止が望ましい健康食品・サプリメント(ハーブ)として上記成分を注意喚起している。国内において、術前摂取を中止すべき成分、その時期についての明確なガイドラインはない。国内には様々な健康食品・サプリメントが販売されており、成分や含量も様々で、影響度も明らかとなっていない。手術への影響を最小限にするために、患者さんの継続希望を考慮した上で、可能な限り早めに健康食品・サプリメント摂取を中止するよう推奨する。		

<参考文献>

- 1) 「循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン」日本循環器学会 (2009年改訂版 2015/10 更新版)
- 2) 「心房細動治療(薬物)ガイドライン2015年改訂版」日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心電学会、日本不整脈学会
- 3) 「脳卒中治療ガイドライン2009」日本脳卒中ガイドライン委員会(日本脳卒中学会、日本脳神経外科学会、日本神経学会ほか) 追補2017
- 4) 「抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン」日本消化器内視鏡学会 直接経口薬(DOAC)を含めた抗凝固薬に関する追補2017
- 5) 「手術医療の実践ガイドライン(2013年)」日本手術医学会
- 6) 「科学的根拠に基づく抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン2020年版」日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会、日本老年歯科医学会
- 7) 「SGLT2阻害薬の適正使用に関する Recommendation」日本糖尿病学会
- 8) 各種添付文書およびインタビューフォーム